

平成 19 年 9 月 27 日 記者会見 会頭発言要旨

会頭就任を振り返って

会頭に就任し、約 5 ヶ月経過した。11 月 6 日の臨時議員総会で再選されるまで、村田前会頭の方針を引き継ぎながら、「助走期間」と位置づけて取り組んできた。

オムロン会長というより京商会頭として見られることが多い。オムロン・バッジではなく京商バッジをつけることがほとんど。公職の重みを感じている。

京商、日商の活動を通じて、「地域」と「中小企業」が 2 つのキーワードであると改めて認識している。京都・関西という地域の資源を活用した、「京都らしい、京都だからできる」中小企業の活性化に取り組み、産業の振興につなげていきたい。

「知恵産業」については、事務局若手管理職でワーキングチームを構成し、多面的な議論を重ねており、京都府、京都市にもご協力いただいている。今後、副会頭、部会長などの意見も踏まえ、11 月 6 日の臨時議員総会で発表する予定。

今後も、役員・議員、会員、事務局職員との双方向型のコミュニケーションを重視していきたいと考えている。

時事の話題

新内閣について

自民党四役人事で、伊吹、谷垣の両氏が重要ポストに就かれたが、政界と連携し京都経済を活性化する意味から歓迎したい。また、今回の組閣は、主要ポストに経験豊かな方を配置し、安定感のある内閣となった。年配者に「安定」を、若者に「希望」を与えるような国政運営を期待している。

日本経済、京都経済の景況について

4 - 6 月期 GDP は前期比でマイナス成長になったが、昨年 10 - 12 月期から続いた高成長の反動の側面があり、景気の回復基調は崩れていない。一方、中小企業は、長期デフレの中で厳しい側面も見られる。米国経済や外国為替の動向が今後の景況を左右してくるだろう。

京都経済は、ハイテク産業、半導体産業は好調である。しかし、中堅・中小企業を中心に景気の減速感を強めつつあり、今後の見通しも不安定・不透明だ。各企業には自主自立の経営が求められることになるが、京商としてはそうした経営者を支援していきたい。

京都商工会議所の動き

1 号議員選挙立候補状況について

9 月 25 日に本所 1 号議員の立候補を締め切った。立候補者数は定員 76 名に対し 81 名となった。新たな立候補者は 15 名。10 月 1 日が立候補辞退の期限であり、それを過ぎてもお 76 名を超えている場合は投票となる。投開票日は 10 月 16 日。

小倉百人一首歌碑建立事業完成について

本所の 120 周年事業で進めている「小倉百人一首」事業のメインの一つ、100 基の歌碑がこの

度完成し、10月19日に記念式典を開催する。

記者からの質問事項

1号議員選挙への思いと投票の有無の見通しについて

立候補者が多いことは、本所の活性化にもつながる。他の商工会議所は1号議員の立候補者が定員に満たないなどの状況がある中で、喜ぶべきことだ。

投票の有無については、立候補辞退締切日までわからない。

11月以降の役員体制、副会頭の人選について

「ニュー京商ビジョン」を実現できる体制を整えたい。具体的な人選については検討中である。

郵政民営化への、期待、注意点について

民営化、特に郵貯の民営化が、サービスの向上につながり、市民の暮らしにプラスになるような結果を期待している。

以上